教　育　研　究　業　績　書

令和 5年　4月　1日

氏 名　今 西　香 寿

研究分野	研究内容のキーワード
健康・体育・レクリエーション	幼児・運動遊び・環境

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
①羽衣国際大学学生による授業評価アンケート結果における評価	平成19年4月～平成26年3月	羽衣国際大学の前後期授業アンケートの結果（レクリエーション概論・レクリエーション実技）すべての項目において平均値を上回っている。特に、評価が高かったのは、声の大きさや熱意が伝わってくるという項目である。また授業内容に関心がもて、この授業を他の学生にすすめたいという点でも、よい評価を得られている。
②科目「ゼミナールⅡ」における学生における子どもの遊び環境についての課外活動の実践例	平成 26 年 4 月～平成 30 年 3 月	大阪千代田短期大学　幼児教育科「ゼミナールⅡ」（2 年次配当、通年、2 単位）において、学生が子ども達に発育発達の面で、体験してほしいと考える遊びを発案し、富田林市にある大阪府営錦織公園管理事務所の協力のもと、遊びの出前講座の演習を行った。開催についての案内を大学や公園管理事務所のホームページや園内に掲示し、年 2 回開催をした。毎回 200 人近くの子ども達が参加をしてくれ、学生達は、参加する子ども達と触れ合いながら、ぎこちない身体の動かし方をする子どもの様子が見ることができたり、参加してくれた子どもの保護者と話すことができるなど、学内では学べない体験ができたようであった。卒業をし、実際公園で行った遊びを保育現場でも取り入れているという話も聞いている。
③科目「健康Ⅰ」・「保育内容演習健康」におけるグループ学習形式の実践例	平成 26 年 4 月～現在に至る	大阪千代田短期大学　幼児教育科「健康Ⅰ」（2 年次配当、半期、1 単位）、和歌山信愛女子短期大学　保育科「保育内容演習（健康）」（1 年次配当、半期、1 単位）において、演習を行った。教科書のみの学びだけではなく、実際に外部講師として行っている幼稚園での子どもの発育発達の状況や子どもの怪我など、具体的に理解できるよう保育現場の事例を多くとり入れながら、授業を取り組んだ。保育現場の具体例は分かりやすく、授業を聞いていても楽しいというよいアンケート評価を得られている。また、グループワークをとり入れながら、子どもの健康についての学びを深めていった。
2　作成した教科書、教材		
① 講義用教材『子どもが育つ運動あそび』株式会社みらい（共著）「再掲」	平成 28 年 4 月～平成 30 年 3 月	大阪千代田短期大学　幼児教育科「体育理論・体育実技」（2 年次配当、通年、2 単位）、「体育Ａ」「体育Ｂ」（1 年次配当、半期、1 単位）において『子どもが育つ運動あそび』の教科書を

今西　香寿

		使用している。学生が実習において活用することができるように指導案の作成の仕方を参考にしながら指導案を作成し、その指導案をもとに授業内で模擬保育を実践している。実践をしているため、教育実習や保育実習においてどのような改善点が必要か振り返ることができる。
②教科書『子どもの姿からはじめる領域・健康』（共著）「再掲」	令和３年９月～現在に至る	和歌山信愛女子短期大学　保育科「保育内容演習（健康)」（1 年次配当、半期、1 単位）において、『子どもの姿からはじめる領域・健康』の教科書を使用している。学生が目の前の子どもの姿を理解することができるように、各章のはじまりは事例から始まり、本文中もなるべく事例を盛り込んでいる。
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
①羽衣国際大学学生による授業評価アンケート結果における評価	平成19年4月～平成26年3月	羽衣国際大学の前後期授業アンケートの結果（レクリエーション概論・レクリエーション実技）すべての項目において平均値を上回っている。特に、評価が高かったのは、声の大きさや熱意が伝わってくるという項目である。また授業内容に関心がもて、この授業を他の学生にすすめたいという点でも、よい評価を得られている
②大阪千代田短期大学による授業評価アンケート結果における評価	平成 26 年 4 月～平成 30 年 3 月	大阪千代田短期大学の前後期授業アンケート結果（保育内容健康Ⅰ・体育Ⅰ・Ⅱ・体育理論・体育実技）をみると、すべての項目において平均を上回っている。特に、評価が高かったのは、声がはっきりしていてききとりやすい、教え方が分かりやすい、学生の質疑応答に応じる姿勢があったという項目である。また、全体の満足度としても高い。
③和歌山信愛女子短期大学による授業評価アンケート結果における評価	平成 30 年 4 月～現在に至る	和歌山信愛女子短期大学の後期授業アンケートの結果（保育内容演習「健康」）授業評価の結果として、「教員の言葉の聞き取りやすさ」は、5 段階評価において、「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解が役立った」において、４以上の高い評価であった。授業の内容について、「この授業は自分のためになる内容だった」においても４以上と良い評価を得られている。
４　実務の経験を有する者についての特記事項		
①公益財団法人　日本レクリエーション協会主催　教員免許状更新講習　実技研修講師	平成 27～令和元年, 3 年 8 月	「元気アップエクササイズ」「遊びが運動になる、運動が遊びになるプログラム体験」の実技研修の講師として、保育士・教員を対象に運動遊びの指導を行った。
②大阪千代田短期大学生涯学習センター主催　保育士資格特例講座の講師	平成 27 年 7 月 平成 28 年 1, 7 月 平成 29 年 1, 7 月 平成 30 年 1 月	保育士を対象に、幼稚園教員免許取得のための運動遊びの実技講習を行った。
③大阪千代田短期大学所外学習センター主催教員免許更新講習の講師	平成 28 年 8, 11, 12 月 平成 29 年	「身体を使ったコミュニケーショントレーニング」の実技研修の講師として、保育士・教員を対象に運動遊びの理論と実践を行った。

今西　香寿

	8,11.,12 月	
④大阪千代田短期大学・附属幼稚園における幼短連携事業の講師	平成 29 年 9 月	大阪千代田短期大学・附属幼稚園における幼短連携事業として、大阪千代田短期大学附属幼稚園にて、４，５歳児向けに鬼ごっこなどの運動遊びを行う。運動遊びを行っている様子を学生が見学をした。学生たちがその様子を見学することで、実際学生たちが授業で行われていることが子どもに対して行うと、声掛けや援助の仕方がどのように変わるのか、発育発達の違いなど見て学ぶよう指導した。
⑤阪南市教育研究協議会公開保育における指導助言	令和 4 年 10 月	阪南市教育研究協議会公開保育において、阪南市の保育所、幼稚園、小学校の先生を対象とし、子どもの体と心を育てる運動遊び～体を動かすってうれしいな！楽しいな！～を研究テーマとし、公開保育についての指導助言や今後の取り組みについて、助言を行った。
５　その他 ①新聞掲載	平成 22 年 3 月	読売ファミリー新聞　子どもと学ぶという欄に、子ども体力向上計画ということをテーマに記事を記載

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項		
事　　項	年　月　日	概　　要
１　資格、免許 ①中学校教諭 1 種免許　保健体育 ②高等学校教諭 2 種免許　保健体育 ③レクリエーションコーディネーター ④幼少年体育指導士 ⑤マスター子ども身体運動発達指導士	 平成 8 年 3 月 平成 8 年 3 月 平成 17 年 3 月 平成 25 年 11 月 平成 27 年 4 月	 平 7 中 1 第 2287 号（愛知県教育委員会） 平 7 高 1 第 2837 号（愛知県教育委員会） 203-1020（公益財団法人　日本レクリエーション協会公認） 第 13-0370 号（日本発育発達学会認定） 27MK-09-4K-16-0219（公益財団法人日本スポーツクラブ協会公認）
２　特許等 ① ②		特許事項なし
３　実務の経験を有する者についての特記事項	平成22年～ 平成24年6月 平成 22 年～平成 24 年１～3 月 平成22年11月 平成 22～26 年 1～3 月	 大阪府立岬町立多奈川小学校において、親子で行うふれあい体操を行った。小学校 2 年生～4 年生対象、3 年連続して、担当した。 阪南市生涯学習推進室主催「わくわく教室」にて、小学生１年生～６年生を対象に、ニュースポーツやクラフトの指導を行った。２年継続して、担当した。 「おやこ元気アップ！事業」（文科省委託事業）の企画、実施をする。阪南市立総合体育館にて、阪南市在住の親子を中心に運動あそびや運動の必要性など、講義と実技指導を行った。 フジテレビ・公益法人　日本レクリエーション協会主催　パナソニックキッズスクール CUP　ロープジャンプ小学生№１決定戦（予選大会・全

今西　香寿

		国大会）にて、審判を担当する。5 年継続し、担当した。
	平成 25 年 1 月	社会福祉法人　大阪府社会福祉協議会主催　レクリエーション研修（保育・児童研修）にて、大阪府下の保育士の先生方を対象に、レクリエーション実技の研修を担当する。
	平成 26～ 平成 27 年 5 月	阪南市立箱作住民センターにて、阪南市在住の 1～6 年生を対象にレクリエーションの指導を行う。2 年継続し行った。
	平成 26 年 7 月～9 月	河内長野市民大学　くろまろ塾にて、親子対象に「おやこでふれあい体育遊び」を担当。月 1 回。
	平成 26 年 8 月	泉南南部公立幼稚園教育研究会にて、泉南南部公立幼稚園教諭を対象に、運動あそびの実技指導を行う。
	平成 30 年 3 月	阪南市教育協議会にて、阪南市立公立保育士・幼稚園教諭を対象に、「運動あそびの必要性・運動あそび」の実技指導を行う。
	平成 30 年 6 月	認定こども園大阪千代田短期大学附属幼稚園にて、「第 50 回全国保育団体合同研究集会　合研プレ企画 in かわちながの」にて、地域の子ども達を対象にふれあいゲームあそびを担当した。
	令和元年 11 月	阪南市教育協議会にて、阪南市立公立保育士・幼稚園教諭を対象に、「共感を通して、子どもどうしの心が通い合う運動遊び」の実技指導を行う。
	令和 3 年 8,3 月～現在に至る	阪南市石田保育所にて、石田保育所に勤務する先生を対象に、保育実践指導、運動遊びを指導するうえでの留意点及び配慮など指導等をテーマに所内研修を行う。
4　その他 ①進路・就職委員長	平成 29 年 4 月～30 年 3 月	学生の進路・就職に関する相談や学生の就職活動の状況や内定報告などを学科会議や教授会で報告を行った。
②実習委員長	平成 29 年 4 月～30 年 3 月	実習に関する事務や授業内容、実習先とのトラブルの対応等、実習に関する取りまとめを行った。
③学生部　副部長	令和年 4 月～3 月	学生が学生生活を充足できるように、自動車通学の申請手続き、体育祭や学園祭の運営やコロナ感染予防対策等、学生のことを考え、学生部の運営を部長と学生部の教職員と共に行った。

今西　香寿

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著･共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
1　『子どもが育つ運動遊び』	共著	平成 28 年 4 月	株式会社みらい（76 ページ）	理論編では、運動あそびの指導計画の仕方、運動あそびの進め方・声のかけ方（Ｐ11～15）について執筆した。実践編では、パラバルーン（ｐ63～70）の遊びの種類、2 種類の遊びの紹介（ｐ59～60）を執筆した。 （共著者名）　倉真智子・大森宏一・奥野孝昭・岸本みさ子・杉原香澄・田中真紀（理論編・パラバルーンは、田中真紀と共著）
2　『シリーズ知のゆりかご　子どもの姿からはじめる領域・健康』	共著	令和4年12月	株式会社みらい（216 ページ）	子どもの運動発達と遊び（ｐ101～111）について執筆をした。乳児から幼児までの発育発達と、各年齢の発育発達に応じた遊びについて執筆した。 （監修者名）秋田喜代美・三宅茂夫 （編著者名）國土将平・上田恵子 （共著者名）小寺玲音・高木悠哉・谷川　友美・中川昌幸・西元直美・長谷秀揮・村田トオル・吉井英博・渡邉彩
3　『子どもが育つ運動遊び　第 2 版』	共著	令和4年4月	株式会社みらい（97 ページ）	理論編では、運動あそびの指導計画の仕方、運動あそびの進め方・声のかけ方（Ｐ11～15）について執筆した。実践編では、パラバルーン（ｐ63～70）の遊びの種類、2 種類の遊びの紹介（ｐ59～60）、ジャンプ遊び（ｐ87～90）、短縄遊び（ｐ91～92）、大縄遊び（ｐ93～95）を執筆した。 （共著者名）　倉真智子・大森宏一・奥野孝昭・岸本みさ子・杉原香澄・田中真紀・橋本麻里（理論編・パラバルーン・ジャンプ遊び・短縄遊び・大縄遊びは、田中真紀と共著）
（学術論文）				
1　調査報告「子どもにとって元気に活動できる環境づくり」	単著	平成 27 年 1 月	大阪千代田短期大学紀要　第43号（ P146 ～ 157）	保育者自身が子どものころの遊び体験が少ないため、子どもと一緒に遊ぶことができない保育者が増えてきている。そのために、現職幼稚園教諭に対し、アンケート調査を行い、最低限幼稚園教諭の養成校において学生がどのような遊びを経験しておいたほうがいいか焦点化して、調査した。
2　研究ノート「幼児期に身につけることが望まれる基本的動作とバリエーション」	共著	平成28年1月	大阪千代田短期大学紀要　第 44 号（P142～151）	生活様式が変わり、遊び環境も変わった今、子どもの身体の動かし方がぎこちない。幼児期にどのような基本的動作を身につける必要があるのかは明確にされていない。例えば、早く歩く、ゆっくり歩く等、基本的動作のバリエーションについて研究した。 （共著者名）　カルマール良子

今西　香寿

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項					
	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
3	教育実践研究 「保育者養成校におけるシラバスにみられる運動遊びに関する指導内容」	単著	平成30年1月	大阪千代田短期大学紀要　第46号（ｐ103～ｐ113）	幼児期において楽しく身体を動かす経験は、心身の発育発達に大きな影響を及ぼすと言われている。子どもが楽しく身体を動かす経験をするためには保育者の役割が重要である。しかし、新人保育者は子どもの頃の豊富な遊び体験を十分してきていないように思われる。幼児に必要と思われる遊びを指導していく力を身につけていくためには、保育者養成校における運動遊びに関するカリキュラムや授業が重要な役割をもつと考える。そこで、保育者養成校における運動遊びに関する指導内容の取り組みを調査した。
4	論文 「生後１年間における育児用品の使用に関する研究―乳児の運動発達の視点から―」	共著	令和元年3月	発育発達研究	生後 1 年間は生涯の中でも運動発達が最も著しい時期であり、その時期の歩行器の使用が、児のその後の発達に影響を及ぼす可能性が先行研究で指摘されている。しかし、歩行器以外の育児用品の使用状況は調査されていない。生後 1 年間における歩行器以外の育児用品の家庭での使用状況を調査し、歩行器より長い時間使用する育児用品を調査した。 （共著者名　カルマール良子）
5	論文 「教育現場で行われている表現に関する 実態調査と領域の内容に関する考察」	共著	令和2年3月	和歌山信愛女子短期大学紀要　第61号 (p37~42)	表現力の基盤は人格形成がなされていく幼児期の経験が大きく影響し、表現方法を身につけるには、様々な体験や経験によって培われていく。保育現場において行事を行うことは子ども達にとって体験や経験の場でもあるが、表現の場でもある。しかし、行事における表現は子ども自身からの表現ではなく、保育者に「やらされている」「させられている」姿になっているのではないか。そこで、保育現場の行事において保育者が 子どもに対し、何に気をつけ、またどのような表現の経験が必要かを明らかにするために保育者を対象にアンケート調査を行った。 （共著者名　野村真弘・種田葉子・石川裕子）
6	論文 「子どもの表現を育むための授業実践に関する考察」	共著	令和2年3月	和歌山信愛女子短期大学紀要　第61号 (p43~49)	子どもにとって表現とはどのようなもので、なぜ、それを担う活動が必要なのか、そうした問題意識を抱き、かつ実践へと繋げていく ためには、まずは教育者としての「表現」にまつわる体験が必要条件であると考え、和歌山信愛女子短期大学における 2019 年度新設科目「子どもの表現」において音楽・

今西　香寿

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項					
	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
					身体・造形を総合的に取り扱う「体験」を着眼点とし、教育実践とした。この教育実 践に基づき、本研究テーマを（１）本授業内で扱った内容が現場で活かされるものとして妥当なのか。（２）学生自身が本授業での体 験をどのように受け止めているか。と設定し、対象学生へ「授業実践後」と「教育実習終了後」とでアンケート調査を行った。そして、得られた二つの回答結果の比較、考察を行った。 （共著者名　野村真弘・種田葉子・石川裕子）
7	論文 「子どもの表現に関する研究動向」	共著	令和3年3月	和歌山信愛女子短期大学紀要　第62号 (p19~28)	人生を如何に創造力豊かに生きようとするかは、生まれてから過ごす環境に大きく関わってくる。特に0歳から6歳までは、人間を形成する重要な時期であり、発達過程も世界に共通している。ここで重要なのは、その発達段階に応じた適切な環境が整っているか否かである。環境とは家庭や幼稚園・保育園等を指す。その環境で大人が年齢に応じた子どもの表現活動を適切な援助するために発達段階を分けて理解しておく必要がある。そのため音楽表現、身体表現、描画表現について年齢に応じた子どもの活動についてまとめている。 （共著者名　井澤正憲・田原淑子）
8	論文 「5歳児の活動を通してみられる表現 - 運動遊び・造形遊びの事例から」	共著	令和4年3月	和歌山信愛女子短期大学紀要　第63 (p15~27)	幼少期にみられる表現は、身体や描画などで「発達と表現」として研究されてきた。人間は表現する生き物であり、太古から喜怒哀楽、生きている証や祈りを身体や造形などで豊かなイメージで私達に伝えてきた。その根源的な欲求は脈々と私たちに受け継がれ、人生を深く味わうために不可欠なものである。その土台は幼少期の「あそび」を通して積み重ねられ、その後の思考や生き方に大きく関わってくる。 本稿は生活環境も大きく変化し、あそぶ場所も屋外より屋内が中心となった。実際の保育現場において運動遊びから出現する身体表現、粘土遊びによる造形表現について５歳児の表現の実態について記述している。 （共著者名　井澤正憲）

今西　香寿